

時計台

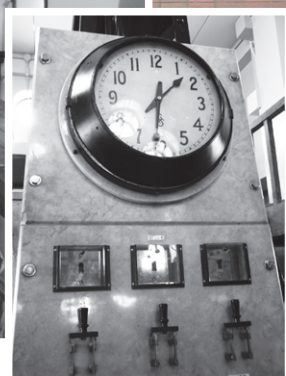
京大の象徴であり、京大の長い歴史を見守ってきた時計台。今年も多くの新入生が入学してきて賑わうキャンパスを静かに見下ろしている。

——そんな時計台の存在を知らぬ者はいないが、その内部を知る者は少ない。そこで今回は、普段は入ることのできない時計台の上部及び内部に潜入調査してみた。(TIGLA)

※今回入った場所は、本来は時計台の整備以外では立ち入ることのできない場所です。そのため今回の取材は、特別な許可を得て、職員さんの同行のもとで行われています。



▲時計台最上層。四方の大時計の針は部屋の真ん中上部の駆動部分・モーターとつながっており、右の写真の時計が、四方の大時計の動きを司っている。また、電波時計も備えているため、高い精度を誇っている。



▲入口上からクスノキを臨む。こんな角度からクスノキを眺めることができるのは、時計台からだけだろう。

時計台の鐘

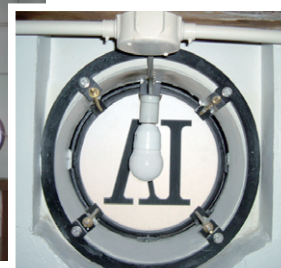
時計台の鐘は塔の北側の文字盤の下についており、実は1日に3回、8時・12時・18時に鳴っている。完成当時は30分ごとに鳴っていたらしい。

ちなみに、時計の動きに連動して自動的にハンマーを持ち上げ、鐘を鳴らす仕組みになっている。——残念ながら総長が鳴らしているのではないようだ。

時計台記念館のHP (http://www.kyoto-u.ac.jp/sisetu/11_tokei/tou.htm) に時計台の詳しい情報が載っているので、ぜひ見て下さい。



▲文字盤裏。1分に1度、音を立てて針が動く様子を間近で見られる。また、時計台の魅力のひとつである文字盤のイルミネーションは、意外とシンプルなものであった(右写真)。



直径約30cm。思ったよりは小さい。

はみだし
すてーじ

うちのクラブのイメージが「ボラギノール」から抜け出しますように!!
⇒どんなクラブですか。止まって治るんですか。

(工・2 痔には…)
(ゴメン違う、それブ○ザエースだ;編)